

東近江総合医療センターにおける医師労働時間短縮計画

1. 医師負担軽減のための取組

- ・医師事務作業補助者の業務習熟を図り、医師業務の軽減を図る

2. 評価体制

- ・勤務医負担軽減にかかる責任者として院長を任命

3. 勤務医負担軽減に係る目標及び達成度の評価

(1) 労働時間と組織管理 【計画期間】令和6年4月1日～令和9年3月31日

1) 労働時間数【年間の時間外・休日労働時間数】 医師 2名

項目	前年度実績	当年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	730h	700h	600h
最長	738h	700h	600h
960h超～1860hの人数・割合	0人・0%	0人・0%	0人・0%
1860h超の人数・割合	0人・0%	0人・0%	0人・0%

2) 労務管理・健康管理

項目	令和6年度の取組実績	令和7年度の取組目標	計画期間中の取組目標
・労務時間管理方法	・ICカードを使用したシステムによる適切な勤怠管理を実施。	・引き続きICカードを使用したシステムによる適切な勤怠管理を行う。	・同左
・宿日直許可の有無を踏まえた時間管理	・宿日直許可に基づき適切に取り組みを行った。	・引き続き宿日直許可に基づき適切に取り組む	・同左
・医師の研鑽の労働時間該当性を明確化するための手続き等	・同内規の周知及び同内規に応じた管理の徹底を行った。	・引き続き同内規の周知及び同内規に応じた管理の徹底を行う。	・同左
・労使の話し合い、36協定の締結	・医師の勤務状況を労使で適宜情報共有を行なながら十分な協議のもと36協定の締結を行った。	・引き続き、医師の勤務状況を労使で適宜情報共有を行なながら十分な協議のもと36協定の締結を行う。	・同左
・衛生委員会、産業医等の活用、面接指導の実施体制	・安全衛生委員会を月1回開催、健康診断を年2回実施。面接指導実施医師の更なる養成として1名、指導医を増加させ、面接指導の実施に取り組んだ。	・左記事項を引き続き実施し、面接指導実施医師は更なる養成及び面接指導の実施に取り組む。	・同左
・追加的健康確保措置の実施	2ヵ月連続して時間外勤務が80時間を超える職員については、面談を実施した。	引き続き対象となる職員については、必要な都度面談を実施していく。	・同左

3) 意識改革・啓発

項目	令和6年度の取組実績	令和7年度の取組目標	計画期間終了年度 (R8年度)の取組目標
・働き方改革に関する医師の意識改革	・働き方改革について、医師からの意見聴取及び取り組み内容の医師への周知を行い意識定着を図る。	・引き続き周知等を行い、働き方改革にかかる意識定着を図る	・同左

4) 作成プロセス

- ①前年度の超過勤務時間の実績等の資料を参考として、医師・看護・コメディカル・事務部門等で形成される会議で、労働時間短縮計画を作成すべき診療科を決定する。
- ②労働時間短縮計画を作成すべき診療科の責任者(医長等)とヒアリングを実施し、またタスクシフト先や勤務環境改善のために関連する他部署等へもヒアリングを実施しながら計画を作成する。
- ③最終的に決定された労働時間短縮計画については、各診療科の責任者(医長等)より周知。

(2) 労働時間短縮に向けた取組

1) タスク・シフト／シェア

項目	令和6年度における取組実績	令和7年度の取組目標	計画期間終了年度 (R8年度)の取組目標
・医師事務作業補助者の配置	・更なる人員確保に向けた募集活動を行い、2名増員している。	配置できていない診療科が依然として存在するため、引き続い人員確保に取り組む。	・医師事務作業補助者を病棟に配置し効率的に医師をサポートする。
・看護師による静脈採血、静脈注射及び留置針によるルート確保	・静脈採血等に関する研修実施、技術向上 ・ivナース等を増員し、病棟へも配置	・引き続き医師による静脈採血、静脈注射及び留置針によるルート確保業務の負担軽減	・同左
・退院調整業務の実施	・退院調整業務の強化のため退院調整部門の地域連携室を設置する	・地域連携室、病棟看護師を中心で多職種間の連携を強化し退院調整を円滑に行う	・医師、病棟看護師等と退院先施設との連携強化
・薬用量、使用法、相互作用など処方内容の確認	・薬剤師による処方内容のチェックを実施した。	・引き続き薬剤師による処方内容のチェックを実施する。	・同左
・入院患者の持参薬の確認・管理	・病棟薬剤師による持参薬の確認・管理を実施した。	・引き続き病棟薬剤師による持参薬の確認・管理を実施する。	・同左
・入院患者への服薬指導	・病棟薬剤師による服薬指導と、患者の内服情報取得、医薬品の副作用情報等の医師への情報提供を行つた。	・引き続き病棟薬剤師による服薬指導と、患者の内服情報取得、医薬品の副作用情報等の医師への情報提供を行う。	・同左
・新規採用薬剤情報、添付文書改定情報、副作用情報等の医薬品の情報集約と情報提供	・薬剤部による電子カルテ等を使用した情報提供を行つた。	・引き続き薬剤部による電子カルテ等を使用した情報提供を行う。	・同左
・医療機器の効率的な中央管理	・臨床工学士による人工呼吸器等の医療機器の中央管理及び定期点検管理及び安全管理を実施した。	・引き続き臨床工学士による人工呼吸器等の医療機器の中央管理及び定期点検管理及び安全管理を行う。	・同左
・ICTチームによる診療支援	・医師・看護師・薬剤師・検査技師によるICTチームによる感染対策に関する診療支援を実施した。	・引き続き医師・看護師・薬剤師・検査技師によるICTチームによる感染対策に関する診療支援の実施を行う。	・同左
・検査レポート等の迅速な対応	・医師の負担軽減のため、迅速で正確な検査結果レポートの伝達を実施した。	・引き続き医師の負担軽減のため、迅速で正確な検査結果レポートの伝達を実施する。	・同左
・初診時の予診の実施	・看護師、医師事務作業補助者による診療前の問診や検査前の情報収集を実施した。	・引き続き看護師、医師事務作業補助者による診療前の問診や検査前の情報収集を実施する。	・同左

・入院の説明の実施	・医師事務作業補助者や看護補助者による入院時の説明を実施した。	・引き続き医師事務作業補助者や看護補助者による入院時の説明を実施する。	・同左
・検査手順の説明の実施	・看護師や診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士等による検査等の説明と同意、薬剤師による薬物療法全般に関する説明を実施した。	・引き続き看護師や診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士等による検査等の説明と同意、薬剤師による薬物療法全般に関する説明を実施する。	・同左

2) 医師の業務の見直し

項目	令和6年度における取組実績	令和7年度の取組目標	計画期間終了年度(R8年度)の取組目標
・外来縮小の取り組み	・急性期医療の治療が終わった患者の地域の医療機関への逆紹介を積極的に行い、外来の縮小に取り組んだ。	・循環型病診連携や複数主治医制を積極的に導入し外来縮小に取り組む	・地域連携室専従看護師の増員、MSWの増員し、常勤の事務職員も配置して管理体制の強化にも取り組む。
・連続当直を行わない勤務体制の実施	・連続で当直を割り振らないよう配慮し当直を計画を実施した。	・引き続き、連続で当直を割り振らないよう配慮し当直を計画する。	・連続で当直を割り振らないよう配慮し当直を計画
・前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時間の休息時間確保	・前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間に一定時間の休息時間を確保するよう計画した。	・引き続き前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間に一定時間の休息時間を確保する	・タスクシフティングの推進により業務の効率化を図る
・複数主治医制の実施	・複数主治医制の導入により負担軽減を行えるよう検討し、一部導入している。	・引き続き複数主治医制の導入により負担軽減を行えるよう検討していく。	・医師の増員確保を目指す

3) その他の勤務環境改善

項目	令和6年度における取組実績	令和7年度の取組目標	計画期間終了年度(R8年度)の取組目標
・院内保育園の充実	・月2回の24時間保育の実施した。病児保育についても実施。	・引き続き月2回の24時間保育の実施。病児保育についても実施していく。	・同左
・育休・産休制度の実施	・育休・産休制度説明・制度利用について、適切に実施した。	・引き続き制度の周知を行い、職場の理解と制度利用を促進していく。	・同左
・地域との医療機関との連携	・高度医療を必要とする患者の受入と、治療後の患者の逆紹介を実施。救急の応需率については年間90%を達成している。	・引き続き高度医療を必要とする患者の受入と、治療後の患者の逆紹介を実施していく。	・地域連携室専従看護師の増員、MSWの増員を目指し、常勤の事務職員も配置して管理体制の強化にも取り組む。

4) 副業・兼業を行う医師の労働時間の管理

項目	令和6年度における取組実績	令和7年度の取組目標	計画期間終了年度(R8年度)の取組目標
・副業・兼業を含む労働時間短縮の取組	・副業・兼業先へ労働時間の協力要請を行い、勤務シフトの調整を行う	・引き続き副業・兼業先へ労働時間の協力要請を行い、勤務シフトの調整を行う	・副業・兼業先へ労働時間の協力要請を行い、勤務シフトの調整を行う